様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７２０１９４

研究課題名（和文）通時的中国語基礎語彙データベースの構築と語彙教育に関する研究

研究課題名（英文）Development of the Diachronic Chinese Basic Vocabulary Database and Research Vocabulary Teaching

研究代表者
氷野　善寛（Hino, Yoshihiro）

関西大学・アジア文化研究センター・PD

研究者番号：８０５１２７０６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本の北京語教育が本格的に始まった明治以降の教科書を対象とした学習語彙の基礎的研究期間として、中国語教材の調査を行い、並行して当時の教科書を対象とした基本語彙研究の手法の構築を目指した。書誌調査としては日本、中国、アメリカなどで当時の教材を多く所蔵する機関で蔵書調査を行い、必要に応じて目録を作成した。同時にオンラインデータベースとして「中国語教材データベース」の構築を進めた。次に語彙研究として、主要な教材の語彙索引作成を進め、語彙索引を作成するためのツールの開発も行った。今後『官話指南』等、日本の中国語教育史に影響を与えた教材の索引を完成させ順次発表していく。

研究成果の概要（英文）：This study has been carried out in the basic survey period with regards to the Chinese fundamental vocabulary research in the history of language education.I have conducted a survey of the Chinese teaching Materials.Its research object is the Meiji era and after.And, throughout the course of the investigation, aimed to construct a basic technique in the fundamental vocabulary study with the teaching materials at that time.The contents of the investigation is the following:1)Implementation of the survey in the libraries of institutions that hold significant collections of the past teaching materials in Japan,China, and the United States.Then,2)I have created the library catalogs as necessary.And, I have proceeded to work towards the construction of the "Chinese teaching materials database".Then, as a part of the vocabulary research, it was promoted the making of the vocabulary indexes of the major teaching materials. And, I have also developed the tools for creating a vocabulary index.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語教材　中国語教育史　基本語彙　語彙索引　中国語　ディジタルアーカイブズ

１．研究開始当初の背景

日本の中国語教育は戦前と戦後で質の面において大きな断絶がある。戦前の中国語教育は南京語教育からはじまり、北京官話教育への切り替えに伴う『語言自邇集』（T. F. Wade，1867）の導入を経て、『官話急就篇』（宮島大八，1907）、『官話指南』（呉啓太・鄭永邦，1882）といったベストセラーになった教材の出版を境に、戦後まで長い停滞期を送ることになる。一時期、伊澤修二により科学的手法を用いた中国語研究が行われたが、当時の中国語教育界に影響を及ぼすことなく、日本の中国語教育では長い間旧態依然とした問答スタイルの教育が行われ、その後戦後になって倉石武四郎の『ラテン化新文字による中国語教本』（1953）を皮切りに新しい方向性が示され、中国語教育の再発展が始まった、というのがこれまでの中国語教育史における一般的な認識であろう。

倉石氏の教材は日本人が学ぶべき中国語の語彙について一定の基準を設け、学ぶべき語彙数を制限したことに意義がある。この語彙数を制限して教えるという発想は、20 世紀初頭のイギリスにおける基礎語彙研究を端緒とし、1921 年に E.L.Thorndike により発表された基礎語彙研究から派生していったものである。中国語教育には語彙の制限及びシステム的な学習という発想が、戦前の日本の中国語教材にはなく、*Spoken Chinese* (1944)や *Two years' course of study in the Chinese language* (1913)など欧米の宣教師や軍関係者が執筆したテキストに確認することができ、このうち前者のテキストを当時の倉石氏は参考にしたと著書の中で語っていることから戦後期の中国語教育の再スタートに際してアメリカの間接的な影響を受けたと考えることができる。しかし中国語教育においては語彙を制限するという発想とは異なり、江戸期から長崎唐通事の間では、同じカテゴリーに属する単語を集中的に覚えていくという学習モデルともいうべき方法が提示されており、明治、大正、昭和の戦前期に至るまで伝統的な問答形式の中国語教材ではそのスタイルが受け継がれていった。これまでこの学習スタイルは単なる古い学習スタイルとみなされてきたが、実際に見てみると自然な問答形式の中で提示されるまとまりのある語彙群を学習していくスタイルはある意味、基礎語彙学習法と並び立つ有益な学習方法と考えることができ、現在の語彙マップ学習法とも非常に近く、単に古い形式というだけでは片づけることができない問題であると近年考えるようになった。さらに、これらの教材を調査していくにあたり、語彙学習の方法の変遷とは別に、いわゆる「基礎語彙」あるいは「基本語彙」と呼ばれるものが時代や地域によって差があることが分かってきた。そこで本研究では、戦前から現代にいたる中国語の語彙教育を通時的に研究し、同時に当時の人がどういった中国語の単語を学んだのか、つまり基本語彙がどういった変遷をたどってきたのかという点について明らかにしたいと考える。この研究は基本語彙の通時的研究であると同時に約 100 年という時間的隔たり、あるいは日本・中国・アメリカといった地域的隔たりによって学習する対象がどのように変化するのか、あるいは変化しないのかということについて明らかにするとともに、それぞれの地域間で共通するものを見出し、それぞれの地域の教育的手法の変化について検討を加えるものである。

２．研究の目的

日本における中国語語彙教育の変遷について明らかにすることを第一に明治期から昭和初期にいたるまでの日本・中国・アメリカで刊行された主要な中国語教材の目録作成とデータベース化を行い、その上で中国語教材を中心とする語彙のデータベースを作成することで、長期間を通じて中国語の基本語彙がどのように変化してきたのか、教科書の刊行地域や時代によって隔たりがあるのかなど明らかにすることを目標とし、この時期に学習対象となされた語彙に対する研究の基礎的研究期間と位置づけ研究を進める。

３．研究の方法

明治期から昭和初期における中国語教材が対象とした中国語語彙の学習について、各教材がどういった語彙を収録しているのかという点について明らかにするために教材調査と語彙調査の 2 つの側面から研究を進める。まず書籍調査としては日本・中国・アメリカの主要な図書館や研究機関を調査し、明治期から昭和初期の中国語教材の所蔵状況を調査し、その上で、中国語教材の目録を作成する。並行して中国語教材のデータを効率的に利用するためのデータベースを設計・開発する。所蔵調査で得られた書誌データはデータベース化した上で、上述のデータベースで公開する。さらにそれぞれの地域、年代で主だった中国語教科書を選定し、必要に応じて、書籍の画像を撮影、ディジタル化した上で公開する。次に語彙調査としては、各教材の中で学習対象としている語彙を調査し、どういった語彙が収録されているのか明らかにするために、一覧を抽出する方法を考え、各教材にどういった語彙があるのかを効率的に取り出し、整理する語彙索引作成のためのツールを設計し、研究の効率化を進める。そして抽出したデータを用いて中国語語彙データベースを構築し、基礎語彙研究を進める。その上で教材のデータベースから得られたデータとあわせ、各時代、各地域ごとにどのような語彙をどのように教授していっているかという点について明示できるようなシステムの設計、開発を進める。以上の成果は随時論文にまとめ発表すると共に、データベースについてはオンライン公開型のデー

タベースとして、以後のこの分野の研究資料として提供できるように整備する。

４．研究成果

本研究は、中国語教育史における中国語基本語彙研究の基礎的研究期間として、日本の中国語教育（北京語教育）が本格的に始まった明治期以降の中国語教材の実態を明らかにし、基礎語彙研究の基本的な手法や方法の構築を目指した。そのため、当時の中国語教材の全体像を明らかにするために、中国語教材の収集や各機関における所蔵状況の把握、目録の作成などを積極的に行った。その過程で最終年度に実施した中国での調査を通じて『官話指南』のフランス語訳版のひとつに中国人による語釈などの書き込みがあることも判明した。これは今回の調査が対象とする語彙研究とは直接的な関わりはないものの明治期に日本人が執筆した中国語教材が他の言語学習の利用に展開し、さらにその教材が中国人の外国語学習教材として利用されている具体的な状況を裏付ける結果となった。以上のように教材の全体像を把握するだけではなく、教材の個別的な利用事例についても深めることができた。この点については 2015 年度刊行予定の『官話指南の研究』(仮題）に成果として盛り込む予定である。また教材調査として特記すべきものとしては、国内有数の中国語教材のコレクションが日本大学（福島）の鱒澤彰夫氏の研究室に収集されていたことが判明したことである。氏の蔵書は日本における昭和初期以前の中国語教育史、教材などに関する書籍が数千冊単位であり、これだけの分量がまとまってあるのは、非常に価値があると感じた。これらの資料は後日氏の退職に伴い研究代表者が所属する関西大学アジア文化研究センターに寄贈いただくことになった。東西学術研究所や、研究代表者が収集した資料を併せることで、明治期から昭和初期の中国語教育史に関係するかなりの資料を一つの場所に集めることができた。その意義は非常に大きく、この研究プロジェクトの最大の成果と言っても過言ではない。同時に今後中国語教育史の研究を進める上で、この分野の研究者にとっては、非常に効率的に資料に当たることができ、当該分野の研究の推進の一助となることは間違いない。なお平成 26 年度末にこれらの資料を受け入れたため、27 年度から目録の編集を開始している。目録の完成は研究期間終了後となるが、継続して受け入れた資料の公開に向けて準備を進めている。

次に構築を予定していたデータベース関係ではオンラインデータベースとして「中国語教材データベース」を構築、公開した。このデータベースでは、別途開発している中国語の「語彙データベース」と連携することで、教材の語彙索引のデータから得られたデータとを照合させ、ある教材についてどういった語彙が収録されていたのかといったことを把握することができる機能を実装するなど、単なる教材の原資料データベースに終わらないような工夫をしている。

また基礎語彙の研究としては、上述のデータベース上に特定の単語がどういった地域や年代に分布しているのかを把握することができる「LangLink」という機能を設計し、その結果を集計しグラフ化する機能を実装した。また研究代表者が関係する他のプロジェクトで語彙索引の作成ツールを利用して、『華語ピン字妙法』や『語言自邇集』など数種類の教材のテキストをディジタル化した上で、このツールを用いて全語彙索引を作成した。27 年度も『官話指南』の語彙索引を公開する予定で準備を進めている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　6 件）

① 氷野善寛、『華語拼字妙法』の学習体系と習得語彙、東西学術研究所紀要、査読有、第 48 輯、2015、307-341

② 氷野善寛、汉语相关资料的数据化尝试―“CSAC 典藏文献数据库”与“汉语教材数据库”、现代汉语的历史研究、査読無、2015、77-86

③ 氷野善寛、サジェスト型中国語辞書の開発―学習者・教員向けのオンライン辞書―、e-Learning 教育研究、査読有、第 9 巻、2014、38-43

④ 氷野善寛・氷野歩、中国語研究のための原資料（１）――「尾崎實旧蔵書」目録、『或問』、査読無、25 号、2014、145-160

⑤ 氷野善寛、歴史的な中国語教材を対象としたオンラインデータベース構築について、東西学術研究所紀要、査読無、第 47 輯、2014、275-291

⑥ 氷野善寛、関西大学東西学術研究所所蔵の中国語教材目録（1868-1950)、東西学術研究所紀要、査読無、第 47 輯、2013、275-291

〔学会発表〕（計　6 件）

① 氷野善寛、学習者・教員向けのオンライン中国語辞書の開発、第 13 回 e-Learning 教育学会、2015 年 3 月 14 日、大阪大学（大阪府豊中市）

② 氷野善寛、中国語における通時的学習語彙データベースの開発に向けて―中国語教材と中国語語彙のリレーショナルデータベース、日本中国語学会第 64 回全国大会、2014 年 11 月 15 日、大阪大学

（大阪府豊中市）

③　氷野善寛、“汉语教材数据库”构想、世界汉语教育史研究学会『汉语国际传播历史”国际学术研讨会 暨世界汉语教育史研究学会第五届年会』,、2013 年 9 月 21 日～22 日、天津外国語大学：天津（中国）

④　氷野善寛、汉语相关资料的数据化尝试—“CSAC 典藏文献数据库”与“汉语教材数据库、现代汉语的历史研究工作坊、2013 年 7 月 6 日～7 月 7 日、琉球大学（沖縄県中頭郡）

⑤　氷野善寛、『官話指南』の版本について、東西学術研究所・言語接触研究班「近代官話教科書研究の最前線」、2013 年 4 月 27 日、関西大学（大阪府吹田市）

⑥　氷野善寛、CSAC アーカイヴズについて、アジア文化研究センター第 9 回研究例会、2012 年 4 月 13 日、関西大学（大阪府吹田市）

〔図書〕（計　1 件）

①　氷野歩・氷野善寛・内田慶市、『語言自邇集』（初版，1867）全語彙索引、『語言自邇集の研究』、好文出版、2015、125-365

〔その他〕

講演

①　氷野善寛、中国語教育・学習における ICT の利用、平成 26 年度國學院大學特色ある教育研究 講演会「新たな中国語教育を考える」、2014 年 11 月 22 日，國學院大學（東京都渋谷区）

②　氷野善寛、関西大学における東アジア文化研究アーカイブスの現状と将来、第 29 回「東アジア書誌学への招待、2012 年 7 月 26 日、学習院大学（東京都豊島区）

ホームページ等

http://www.chlang.org/

６．研究組織

(1)研究代表者

氷野,善寛（HINO, Yoshihiro）

関西大学・アジア文化研究センター・PD

研究者番号：80512706